

地域の現実と関わりながら

自己発見がはじまる

「チャレンジ21教育推進運動」安田高校の場合

地域の複眼的な目で計画を

今年度、県下の百を超える高校のうち三十二校が、この運動に参加します。高校では小中学校と違って地域代表の推進委員は教職員、保護者から選んでよいとなっています。地域とのふれあいが日常的にうすいぐよえへの措置なのでしょうか。

中学校などを中心にした地域の学校教育に関わる人達、就職関係で地域で世話になる人達、県内大学等の識者、放課後の生徒の校内外の活動にかかわる人達とか見渡せば適任者がいろいろおられるような気もするのですが。

(わたしは在任中、目の前の緊急な課題に日夜きりき

り舞いをして過ごしていました。いまふりかえって見ると近視眼的な教育活動に陥りかちだったという反省があります。その意味でこの推進運動が学校を客観的にみてる声を複眼的に組み立てて運動の輪をひろげていけるといいな—と思いました。

まだどこも始まったばかりです。どんなことをやるのか。県民のみなさんにその一例をお伝えします。

教育長さんも推進委員のメンバー—という地域に支えられた安田高校の「チャレンジ21教育推進運動」もエリジン開始です。

「自分の良さに気付き、それを伸ばして地域に信頼され、期待される人になってほしい。時代の変化を説

